

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

（別紙5）

担当課：九州地方整備局 道路部 地域道路課

担当課長名： 的場 真二

事業名	一般県道 <small>のましままこう</small> 野間島間港線 <small>しもだ</small> 下田工区	事業区分	地方道	事業主体	鹿児島県
起終点	自：鹿児島県熊毛郡中種子町 <small>くまげぐんなかたねちよう</small> 下田 <small>しもだ</small> 至：鹿児島県熊毛郡中種子町 <small>くまげぐんなかたねちよう</small> 下田 <small>しもだ</small>	延長	1.1 km		
事業概要	一般県道野間島間港線は、中種子町の中心地である野間地区から種子島西海岸を南下し、島間港に至る地域産業及び生活基盤の根幹をなす幹線道路である。しかしながら、中種子町中心部の西側に位置する下田地区は歩道も未整備であり、幅員狭小（W=5.1m）の隘路区間となっていることから、安全で円滑な交通の確保を図るため、2車線整備と歩道整備を行うものである。				
H 8年度事業化	H 1年度都市計画決定 (H 年度変更)	H 9年度用地着手	H 11年度工事着手		
全体事業費	10億円	事業進捗率	89%	供用済延長	0.4 km
計画交通量	1400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 7.2	総費用 (事業費) // (事業全体) 1/11億円 (事業費：1/10億円 維持管理費：0/1億円)	総便益 (残事業) // (事業全体) 8/13億円 (走行時間短縮便益：7/11億円 走行費用減少便益：1/1億円 交通事故減少便益：0/1億円)	基準年	平成17年
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線がある） 国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車のすれ違い困難箇所が改善される） <p style="text-align: right;">他2項目に該当</p>				
関係する地方公共団体等の意見	地域住民は早急な整備を望んでおり、県と町が一体となって全体説明会を開くなど町の協力を得ている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	交通量（日当り）は542台/日（平成6年度）から859台/日（平成11年度）と増加（1.58倍）しており、道路改良の必要性はますます高まっている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成16年度までに延長約400m区間（橋梁1基 50mを含む）の供用を図っており、残事業は約700mである。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	共有地があることから、用地調査に期間を要していること、また、一部地権者の事業に対する理解が得られないことにより、期間を要している。しかし、用地取得率は90%を超えており、道路整備の早期完成を望む声も高いことから、早期の用地買収に努め、平成19年度中の完成を図る。				
施設の構造や工法の変更等	コンクリート二次製品の積極的な活用や再生骨材の採用によりコストの縮減を図るとともに、切土量と盛土量のバランスをとることにより、残土発生量を抑え、コスト縮減を図っている。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図	<p>The figure consists of three parts: 1. A regional map of Kagoshima Prefecture with a red box indicating the project area in the Nakanoseki area. 2. A detailed map of the project site showing the route from Nakanoseki to Shimoda, with labels for '事業箇所' (project section), '終点' (end point), '起点' (start point), and '未整備区間 L=700m' (unimproved section). It also shows '供用区間 L=400m' (operational section) and a bridge with 'L=50m'. 3. A cross-section diagram '標準断面図' (standard cross-section) showing lane widths of 3.00m, 3.00m, and 0.50m, and a total width of 11.00m.</p>				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。